

学校教育目標	共に生き、共に学び、共に汗する 心豊かな津留っ子の育成
育成を目指す資質・能力	自立:基礎的な学力に基づく自己決定力 共生:対話力 向上:問題発見・解決力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題(5年学テ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・算・理いずれも正答率が、全体・知識・活用ともに全国及び大分県の平均値を大きく上回っている。達成率も、全国及び大分県の平均値を大きく上回っている。 ・正答率50%未満の児童が国4%・算2%・理5%であった。 ・無解答率が低く、粘り強く取り組んでいると考えられる。 理科は内容によって誤答率が高いものがある。特に、事象の説明を科学的な言葉等を用いて説明する力に課題が見られる。 <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで、「ペア・グループトークで自分の考えを説明することができた」と回答した89%に対し、「全体の場で進んで発表できた」と回答した児童の割合が65%であった。問題の解き方や実験を通して得られた結論など、学習した内容を説明したり発表したりして、共有を図る言語活動に力を入れていく必要があると考える。 ・教師アンケートで、「前時の振り返りから次時のめあてを導き出している」という項目が76%であった。今後も、子どもの思考に沿った問題解決学習の学習展開をより充実させていく。 	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率が70%~80%の児童が少なく、正規分布ではない。B層の引き上げが課題である。 ・国語は「調査の結果をもとに話し合う」が苦手。資料を基に根拠や理由を明確にして話し合ったり、対話したりする活動の充実が必要である。 ・算数は記述問題の結論まで書いていない誤答率が高い。問いに対して、結論まで書いていない誤答率がやや高かった。問いを確認して、「何を」、「どのように」、「どこまで」記述すればよいかを繰り返し指導する必要がある。 ・理科は単元による正答率のばらつき及び後半の無解答増加の対策として、正答率が低い単元の復習と時間配分の指導、更には短時間に科学的な言葉等を用いて説明する力が身に付いていないことが原因と考えられる。予想や仮説を説明したり、結果を考察したりする学習活動を重視した指導が必要である。 <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考に沿った指名をしたり、ペア・グループトークのバリエーションを広げ効果的な活用を仕組んだりすることで、協働学習に取り組ませる。 ・話型を活用し、授業の後半の練り合う場を活性化させ、子どもの言葉でまとめを導き出す表現力を培うよう働きかけが必要である。 ・学習の連続性を意識して単元計画を立てることを意識付ける。
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知育部を中心に道徳教育の校内研修を充実、深化するとともに、年3回の提案授業の研修を軸にして、短期PDCAサイクルで検証・改善を繰り返し取組が進んでいる。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底を図りながら、「互いを認め合い、友だちとなかよくできる子の育成」「進んで体力づくりに励む子の育成」との相関を意識し、「生徒指導の3機能」を取り入れた授業改善に組織的に取組、基礎・基本の力を発揮できる子の育成につながる授業実践に努めている。 	

学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数・理科・社会の単元末テストで目標値80点以上の達成率が80%以上にする。 ○全体の場で進んで発表できる児童の割合を80%以上にする。 ○ペアやグループ活動の時、自分の考えを説明できる児童の割合を90%以上にする。
------------	--

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
次年度の具体的な取組	<p>(授業改善のテーマ)</p> <p>子どもの対話力を培う授業づくり</p> <p>(授業改善の重点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導と評価の一体化 2. 協働によって自己の考えを広げ深めたり、新しい価値を構想・創造したりする授業づくり 	<p>(達成指標)</p> <p>学習習慣の土台を築く</p>
	<p>(取組内容)</p> <p>PDCAサイクルを通して、指導と評価の一体化を図りつつ、児童の実態を踏まえてよりよい授業実践を行う。</p> <p>例:課題を追究して解決する活動を通して問題解決に必要な資質・能力が育成できるような学習活動を設定する。児童の学習状況を的確にとらえ、指導・支援を行ったり指導方法を修正したりする。</p>	<p>(家庭・地域の取組内容)</p> <p>「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の徹底。</p>
	<p>(取組指標)</p> <p>○学年で以下のことを共通理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の「ねらい」を明確にし、達成状況をみとるための具体的な評価規準を設定することで、児童の資質能力を育成することができたか。 	<p>(家庭・地域の取組指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、宿題は必ずやり遂げたかを確認する ・全ての家庭で、テレビを見ながらの学習はさせていない
	<p>(検証指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数・理科・社会の単元末テストで目標値80点以上の達成率が80%以上にする。 ○アンケートで「授業がよく分かる」と回答する児童の割合が90%以上 	<p>(検証指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「宿題を忘れずにすることができた」と回答する児童の割合が90%以上 ○「子どもは家庭学習の習慣がついている」と回答する保護者の割合が90%以上
	<p>【その他の学力向上の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年部における共通理解事項を組織的な授業改善の視点から、知育部会で検証・改善する。(短期PDCAサイクル) ○互見授業及びレベルアップ講座を開催し、授業力を高め合う。 ○B層・C層の引き上げについて、個別や習熟度別に学習できる場をつくりさらに充実させる。 	

今年度中の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が引き受けるめあて及び追究課題を提示する。 ○交流を活発化させる発問をし、交流場面で、自分の考えを書いたり発表したりするよう指導する。
-----------	---